

市立川西病院の指定管理者制度 初年度は大幅な見込み違い

4階北病棟閉鎖・10対1看護体制のまま スタッフ、患者激減

新病院にも影響懸念

赤字拡大 7億5600万円

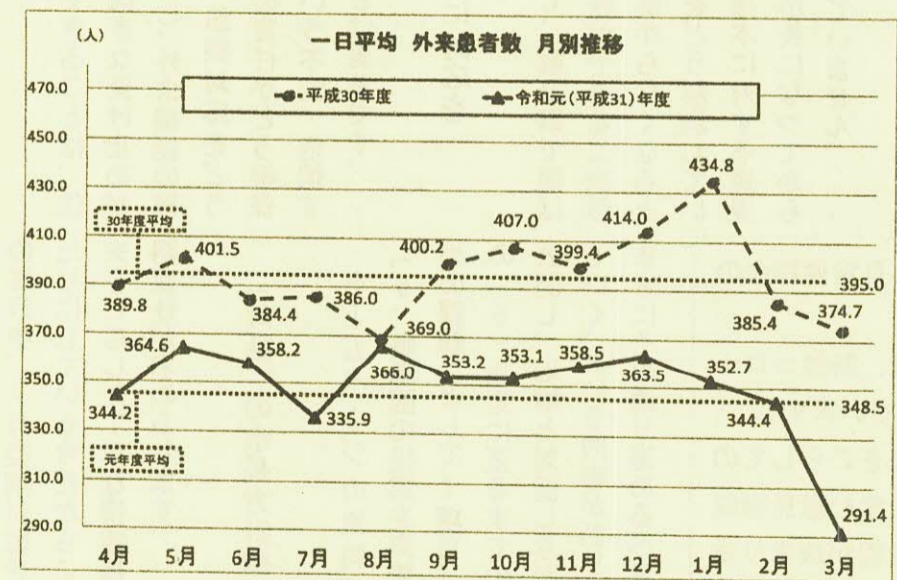
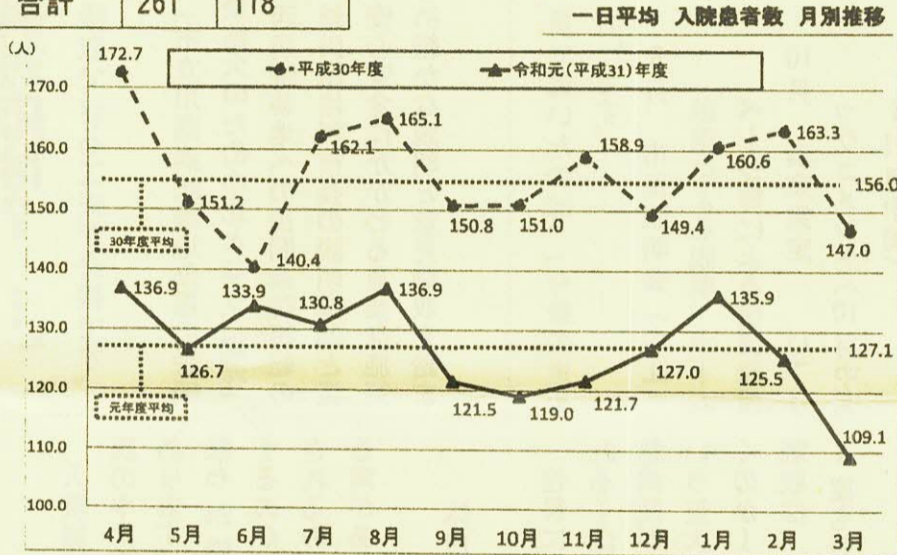
表・病院職員数の変化(人)

2019・4月	数	元市職員
医師	31	21
看護師	141	103
医療技術者	49	18
事務員	17	0
合計	238	142
2020・7月		
医師	36	16
看護師	151	85
医療技術者	54	17
事務員	20	0
合計	261	118

指定管理者制度の導入にあたっては、医療スタッフも医療水準も現状を維持向上させる計画でしたが、案じていた通り、2019年4月から職員の確保が難しく、5月から4階北病棟閉鎖、7対1だった看護体制は10対1へと変更を余儀なくされ今日に至ります。

この間たんぽぽだよりでお伝えしているように、元市職員だったベテランの医師(21人↓16人)や看護師(103人↓85人)は減り続け、現在は新たな体制確保がされています。

一日平均患者数の推移 (平成30年度～令和元年度)



「水準」まもられず

市立川西病院整備調査特別委員会が8月20日に開かれ、昨年4月に指定管理者制度に移行した市立川西病院の初めての決算(2020年3月期)と市民モニター会議、経営評価委員会の答申が報告されました。決算では懸念された通り、患者も収益も大幅に減少し、赤字は7億5600万円に拡大しました。新型コロナウイルスの影響もあり、今後が心配されます。

新型コロナウイルスの影響も心配 保がされています(表参照)。

赤字が膨らむ(下の表参照)

患者数が減った要因について、市立川西病院モニター会議(第4回)では指定管理者から、①暖冬の影響、②一般内科、呼吸器内科の医師退職による患者数制限によるものと説明されていることでした。(グラフ参照)

市立川西病院経営評価委員会(第4回)では、指定管理者の観点として①病棟再開ができなかったこと、②予定になかった夏季賞与(8800万円)の負担、③新型コロナウイルス感染症の流行と指摘しています。

市立川西病院 指定管理者「市立川西病院 指定管理者評価表」では、2020年2月の中間答申時に、赤字が当初計画比6800万円増えて6億1320万円になったとして経営状況点数は5点(8点満点)としました。

これは理解できませんが、本決算では当初計画より赤字が2億1079万円も増えたのに、邊見公雄委員長が「5点の点数は変更なし、新型コロナウイルス感染症の流行

しかし、コロナの影響は年度末3月の外来患者数への影響は顕著ですが、年間の業績を左右するほどのものではないでしょう。

評価委員会甘い?

表・収支計画と決算について(2019年度)

令和元年度	2019年度収支計画	2019年度決算
医業収益	44億8722万1000円	33億9605万1000円
医業費用	48億8474万6000円	40億6073万1000円
医業利益	▲3億9752万5000円	▲6億6468万円
医業外収益	2億7432万4000円	0
医業外費用	4億2209万1000円	9140万8000円
経常利益	▲5億4529万2000円	▲7億5608万8000円

※ 計画では、市からの指定管理料2億5000万円は医業外収益にしていたものを医業収益にするなど法人の組換があります。

状況を加味するという但し書きをつけてはどうか」としています。

私は、経営評価委員会というのは、経営状況を事実に基づき評価するもの、今回の評価は甘すぎるのでは、との印象を持ちました。

評価表(総合評価)の合計点は57点(80点満点・71.3%)となっています。

「現行科目について安定的かつ継続的な医療を確保するために必要なスタッフの確保ができていないか」「病院の利用者数の状況(外来・入院共収益、患者数、診療単価)」という病院機能として一番大切な評価項目が、指定管理者自己評価で「1点(改善が必要)」となっていることをみれば、経営評価委員会の評価は甘すぎると言わざるを得ません。(215号・2枚目表面に続く)